

学 習 会 報 告

「楽しく学べる教材・教具」

講師：東北福祉大学 教育学部 教育学科
准教授 杉浦徹先生



9月9日、東北福祉大学の杉浦徹先生を講師とし、オンラインにて本校職員向けの研修会を行いました。テーマは「教材・教具」。講話や演習、実践事例などを紹介いただき、教材づくりにおいて大切な視点を学びました。

「うれしい」気持ちを育む

私たち教員は日々様々な教材・教具を作り、授業や支援のツールとして活用しています。これらを作る上で「できた。」ではなく、「できてうれしい!」という気持ちを育てる視点が大切であることを学びました。例えば絵カード等の視覚支援を使い、先生や友達に「伝わった」「自分の意見を聞いてもらえた」という気持ちを味わう。それらを活用して学校、家庭、街においてもコミュニケーションを広げていくことで、役割が生まれたり、活動への参加が広がったりします。そういった取り組みが、みんなが一緒に生きていける社会を作っていくということを学びました。



ちょっとした工夫が豊かな学びへ

演習では、折り紙で「飛ぶタネ」を作りました。折り紙を切って…



1、2分程度でできる教材です。できた「飛ぶタネ」を上から落とすと、ひらひらと宙を舞い、なんとも面白い動きを見せてくれます。

杉浦先生の「頭。」「腕。」などの掛け声に合わせて、指定された体の部分でタネに触れる活動では、思わず私たちも熱中してしまいました。ボディ・イメージがつかみにくい子どもたちにとって、こういった遊びから自分の体を把握していくことは、空間認知や思考を育てる上でとても大切なことです。さらに友達同士で「投げる・とる」を行うなど、様々な活動へと発展させていく例を御紹介いただきました。簡単にできるこの教材をどう活用するか…考えてみると、たくさんワクワクするアイデアが浮かんできたのではないかと思います。他にも、簡単にできて、様々な活動へと発展させられるおもちゃをたくさん御紹介いただきました。

子どもの笑顔を想像しながら、私たち教員自身もワクワク、楽しく授業づくりを行っていかうと感じた研修でした。